

令和4年度地域と市長のまちづくり懇談会 松山校区

開催年度回次	令和4年度第7回	開催月日	令和4年7月10日	開催校区	松山校区	開催場所	中部地区市民館																																																																				
議 題				市の回答																																																																							
<p>1. 松山校区の将来の世帯数の推移について</p> <p>これからの松山校区自治会が、無理のない運営や活動をしていくために、必要な検討を進めていこうと考えています。</p> <p>自治会は世帯単位で加入していただいております。今後の自治会の在り方を検討する際の参考にしたいと思っておりますので、世帯数の推移について分かる範囲でご教示ください。</p> <p>【参考】</p> <p>松山校区の人口推計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>2015年</th> <th>2035年</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総人口</td> <td>6,768</td> <td>5,164</td> <td>▲1,604</td> </tr> <tr> <td>0～14歳</td> <td>786</td> <td>367</td> <td>▲389</td> </tr> <tr> <td>15～64歳</td> <td>4,170</td> <td>2,904</td> <td>▲1,266</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,812</td> <td>1,863</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table>				区 分	2015年	2035年	増減	総人口	6,768	5,164	▲1,604	0～14歳	786	367	▲389	15～64歳	4,170	2,904	▲1,266	65歳以上	1,812	1,863	51	<p>政策企画課</p> <p>校区ごとの世帯推計はございませんが、豊橋市全体の世帯数は増加傾向にあり、今後も、核家族化や単独世帯の増加等によりこの傾向は続くものと推計しています。松山校区においても市全体と同様に増加傾向になるものと考えています。</p> <p>なお、松山校区は、令和2年国勢調査の結果、人口増減率は1.7%と市内では、12位の増加率でした。一方、1世帯当たりの人員数は、2.07人と市内で最も少なくなっています。</p> <p>【参考】</p> <p>豊橋市全体の世帯数の推移(各年4月1日現在) 出典:住民基本台帳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世帯数</td> <td>154,890</td> <td>156,719</td> <td>158,627</td> <td>160,881</td> <td>161,878</td> <td>162,341</td> </tr> </tbody> </table> <p>松山校区の世帯数の推移(各年4月1日現在) 出典:住民基本台帳</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>2017</th> <th>2018</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>世帯数</td> <td>3,135</td> <td>3,166</td> <td>3,193</td> <td>3,269</td> <td>3,267</td> <td>3,323</td> </tr> </tbody> </table> <p>松山校区 2015年の人口(推計との比較)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>2015年</th> <th>推計</th> <th>4月1日人口</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総人口</td> <td>6,768</td> <td>6,563</td> <td>▲205</td> </tr> <tr> <td>0～14歳</td> <td>786</td> <td>692</td> <td>▲94</td> </tr> <tr> <td>15～64歳</td> <td>4,170</td> <td>3,929</td> <td>▲241</td> </tr> <tr> <td>65歳以上</td> <td>1,812</td> <td>1,942</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>				年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	世帯数	154,890	156,719	158,627	160,881	161,878	162,341	年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	世帯数	3,135	3,166	3,193	3,269	3,267	3,323	2015年	推計	4月1日人口	差	総人口	6,768	6,563	▲205	0～14歳	786	692	▲94	15～64歳	4,170	3,929	▲241	65歳以上	1,812	1,942	130
区 分	2015年	2035年	増減																																																																								
総人口	6,768	5,164	▲1,604																																																																								
0～14歳	786	367	▲389																																																																								
15～64歳	4,170	2,904	▲1,266																																																																								
65歳以上	1,812	1,863	51																																																																								
年	2017	2018	2019	2020	2021	2022																																																																					
世帯数	154,890	156,719	158,627	160,881	161,878	162,341																																																																					
年	2017	2018	2019	2020	2021	2022																																																																					
世帯数	3,135	3,166	3,193	3,269	3,267	3,323																																																																					
2015年	推計	4月1日人口	差																																																																								
総人口	6,768	6,563	▲205																																																																								
0～14歳	786	692	▲94																																																																								
15～64歳	4,170	3,929	▲241																																																																								
65歳以上	1,812	1,942	130																																																																								

開催年度回次	令和4年度第7回	開催月日	令和4年7月10日	開催校区	松山校区	開催場所	中部地区市民館
議 題				市の回答			
<p>2. 少子高齢化社会における地域活動について</p> <p>少子高齢化が進行する中で、行政に頼るだけでなく、地域社会全体が、見守り・協力しあっていくことがますます重要になってくると思います。</p> <p>例えば、シニア世代による子育てや、学ぶ意欲のある子どもたちへの支援は、子育て世代を支えるとともに、シニア世代にとっても、自身の経験を活かし、生きがいを実感することができ、よい効果が期待できると思います。</p> <p>地域社会全体で子どもの豊かな人間性を育むことを希望した地域住民が活躍できる、場所や機会はありますでしょうか。</p>				<p>生涯学習課</p> <p>現在、各地域への委託事業として、「地域いきいき子育て促進事業」を実施しております。本事業では、子どもたちが健やかに育つことができる地域社会の構築を目指し、地域のボランティアが主体となり、主に市民館を拠点に将棋や工作、本の読み聞かせなどの活動を通じて、地域の自主的な教育力の向上を目指した取り組みを進めていただいているところです。</p> <p>子どもたちには多くの大人たちと交流を図ってほしいと考えておりますので、今後も様々な事業、活動を通じて地域の皆様には参画・サポートいただくとともに、市としましても、引き続き機会の創出に取り組んでまいります。</p>			

開催年度回次	令和4年度第7回	開催月日	令和4年7月10日	開催校区	松山校区	開催場所	中部地区市民館
議 題				市の回答			
<p>3. 柳生川の浸水対策について</p> <p>松山校区を流れる柳生川は、渥美線柳生橋駅周辺に鉄道橋、道路橋が連立する狭窄区間があり、平成20年8月末豪雨で大規模な浸水被害を受けるなど、浸水対策が課題となっていました。現在は、関係機関により様々な対策が実施され、安全性が向上しており大変心強く感じています。そこで、これまでどのような取り組みを実施してきたのかお聞きしたい。</p>				<p>河川課</p> <p>愛知県の管理である柳生川では、平成20年8月豪雨による大規模な浸水被害が発生したことを受け、平成23年に、狭窄区間の対策としての地下河川整備を明示した「柳生川水系河川整備計画」が策定されました。</p> <p>市が実施した取り組みとしましては、莫大な事業費を要する地下河川整備が実現されるよう、地域の皆様と一体となり事業実施主体である愛知県への要望を実施するとともに、国に対しましても、愛知県と合同で財源確保していただけるよう要望活動を実施してきました。その結果として、令和元年度に国の「大規模特定河川事業」に採択され令和7年度の事業完了に向け事業が着実に進められているところです。現在は、整備計画に基づく河口部・下流域の河道改修、高潮堤防の嵩上げについて着実に推進していただけるよう、愛知県に対して継続的に要望書を提出しています。</p> <p>また、柳生川への雨水流入抑制対策として、平成22～27年度にかけて、柳生川流域の向山大池の改修、小中学校のグラウンドへの地下貯留施設整備などを実施するとともに、ソフト対策としまして、令和元年度に「柳生川流域 洪水ハザードマップ」を作成し、浸水被害が想定される校区の全世帯に配布し、現在、ハザードマップの内容を理解していただき、洪水時の迅速な避難行動につなげていただくために、地域の防災訓練に出向いての説明など啓発活動に努めているところです。</p> <p>今後も、地域の皆様が安心して生活できるよう、地域の皆様と一体となり浸水被害軽減対策に取り組んでまいります。</p>			